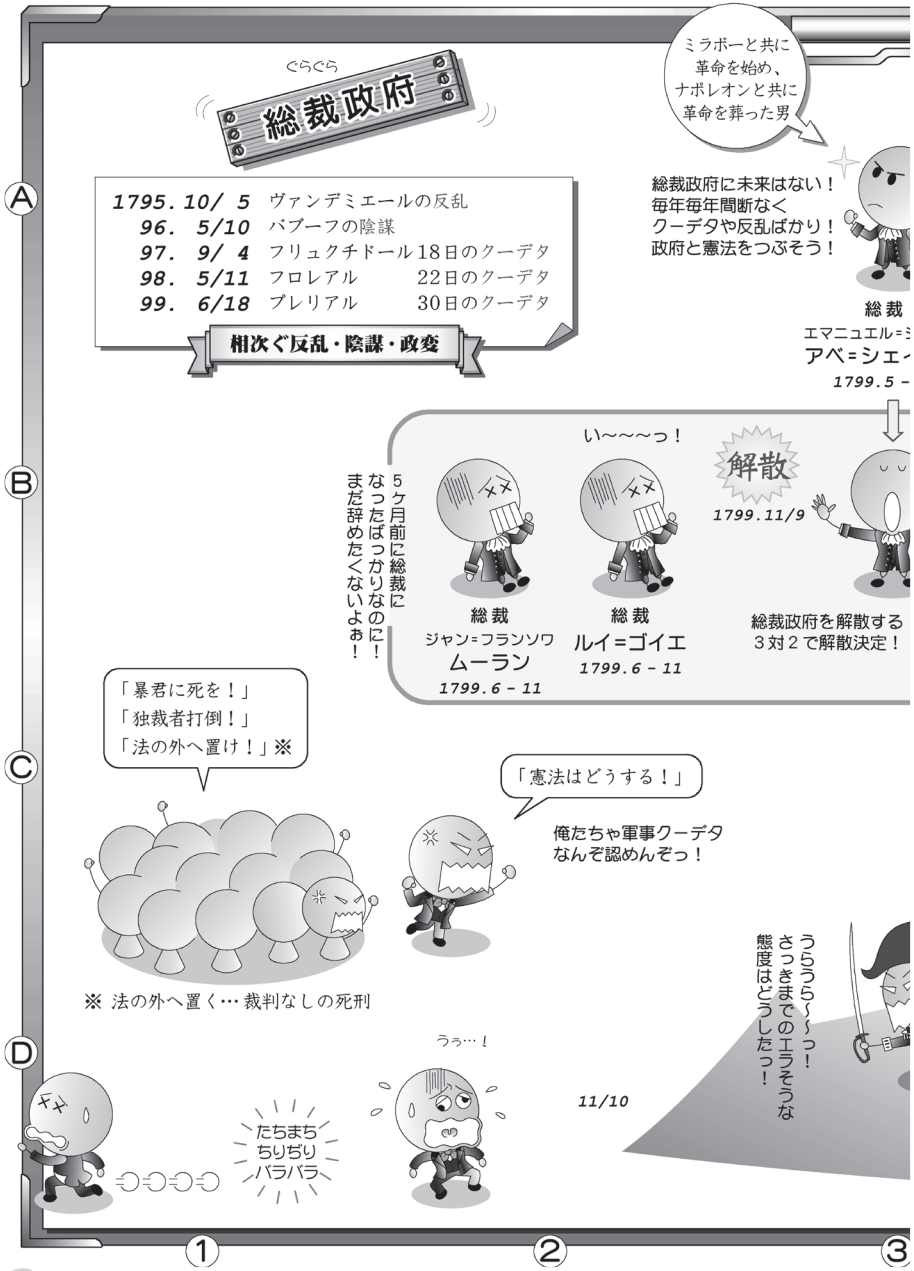
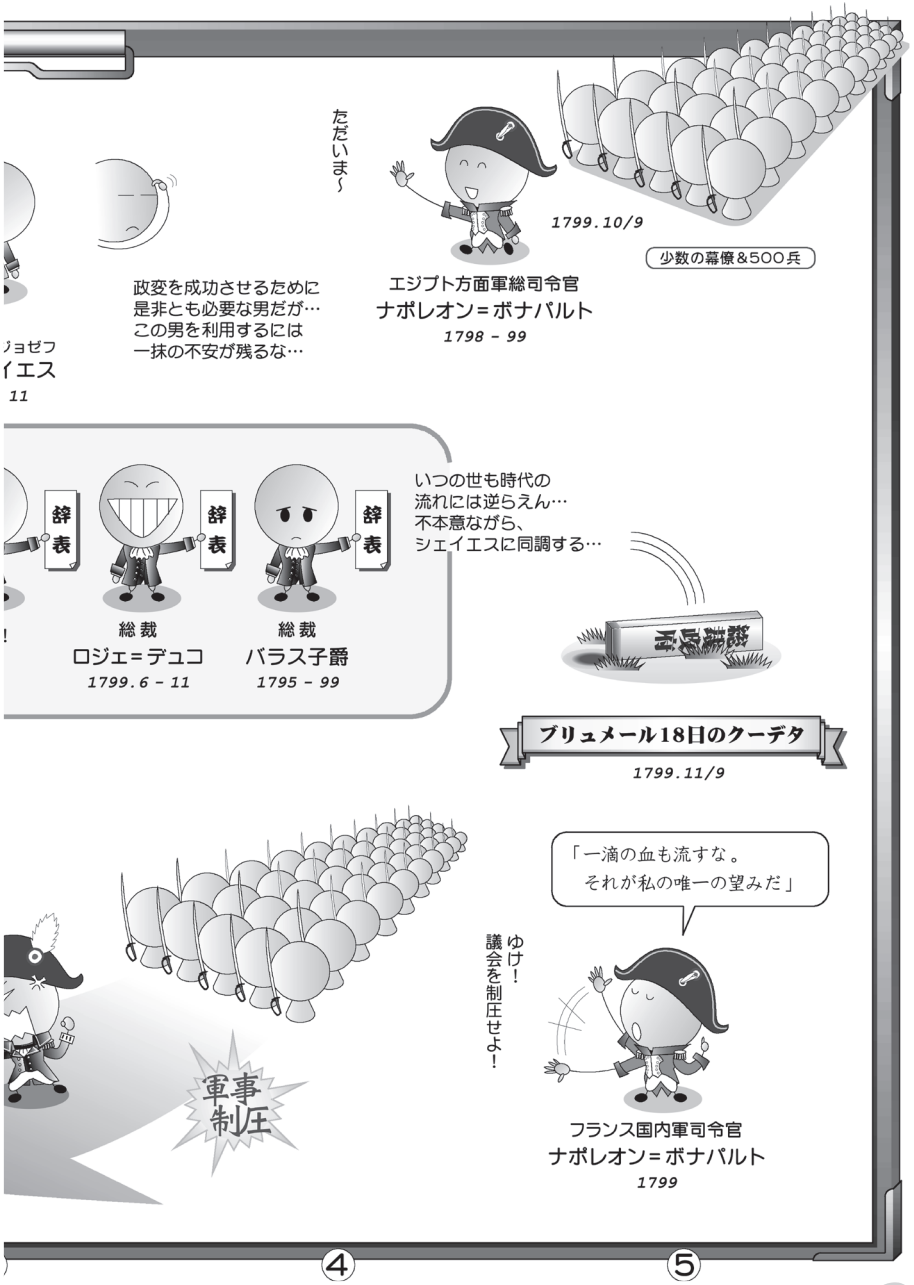
〈ブリュメール 18 日の政変〉



1799 年（30 歳）



エジプトに孤立してしまったナポレオン軍でしたが、各地を転戦し、苦しみながらも勝利を重ねていました。

そんなあるとき。

ナポレオンは、イギリス軍との交渉中、フランス語新聞を入手します。

そこには、彼にとって驚くべきニュースが書かれていました。

―― なんだとっ！？

さきのイタリア戦線で私が命がけで手に入れた領土(＊01)を、

かたっぱしからぜんぶ取り返されただと！？

彼はこの報(ニュース)をきっかけに、帰国を決意します。

―― 総裁政府(ディレクトワール)はもうダメだ。

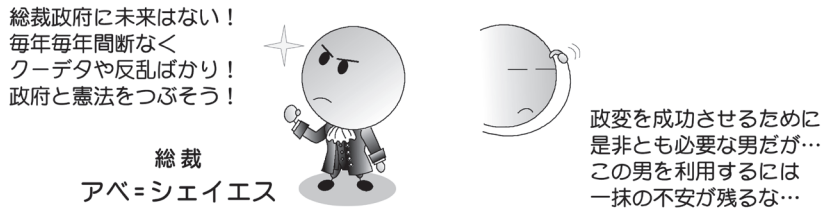
今のフランスは私を必要としている。

他の誰でもない、この私がフランスを導かねばならない！(＊02)

しかし。

帰国するためには、ふたたび地中海を横断するという危険を冒(おか)さなければなりません。

その途次、イギリス海軍に捕捉されたらすべてはオシマイです。



(＊01) 現在のベルギー・ルクセンブルク・ライン左岸・ロンバルディア・モデナ・ロマーニャなどのこと。詳しくは「本章 第３幕」のパネル地図を参照のこと。

(＊02) 彼は、ロディ会戦のあと自分の“歴史的役割”を自覚し、ピラミッドの戦のころそれを確信したと述べていますので、「今こそ時が満ちた！」と考えたのかもしれません。一説には、大ピラミッドの“王の間”で一夜を過ごし、「自分の未来」の幻を見た…とかなんとか。

しかし、それでも彼の決意は揺らぎませんでした。

―― なあに、往路のような大船団じゃなく、側近だけを連れ、

高速船に乗っていけば、さほどの危険はあるまい。

もちろん一定の危険は伴おうが、そこは自分の“運”に賭けよう！

こうして、1799 年 8 月 23 日の朝、ついにナポレオンは 500 ほどの兵と幕僚とともにエジプトを出港しました。(＊03)

ちょうどそのころ。

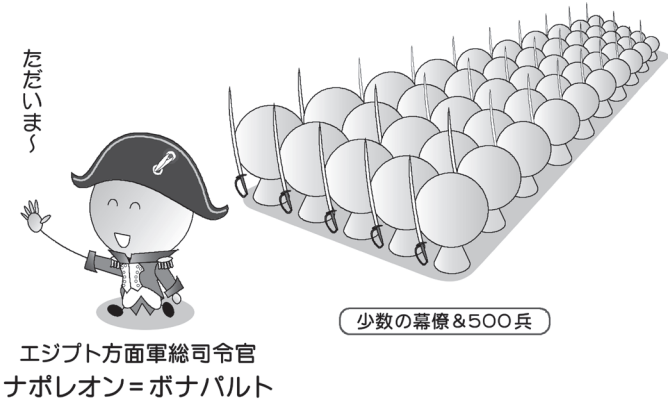
パリでは総裁政府(ディレクトワール)を倒すための密談が行われていました。

その中心にいた人物こそ、Ｅ(エマニュエル)．Ｊ(ジョゼフ)．アベ＝シェイエス。(＊04)（A-3）

革命(レヴォリュシオン)の最初期において、

―― いよいよ綱が断ち切られるときが来た！(＊05)

…と叫んで革命(レヴォリュシオン)を牽引(けんいん)し、「ミラボーとともに革命(レヴォリュシオン)を始めた男」と評される人物です。



(＊03) 要するに、「麾下の軍を見棄てた」ということになりますが。何の相談もなく、置き手紙ひとつで後事を託されたＪ．Ｂ．クレベール将軍は怒り心頭だったといいます。

(＊04)「アベ」というのは「聖職者」という意味です。

(＊05)「もう我慢の限界だ！」というくらいの意味です。
詳しくは、『世界史劇場 フランス革命の激流』（ベレ出版）を参照のこと。